

2022年10月24日(月)

老球の細道697号

Bリーグ試合(第4節 福島対福岡)観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

私が子どもの頃に活躍した正義の味方に「鉄人28号」がいた。なぜ28号だったのかはいまだに不明であるが、彼の兄弟に「別人28号」(仮面ライダーといとこ)もいた。鉄人28号はいつも変わらず強かったが、別人28号は時としてものすごく強かったり、時として期待外れに弱かったりして変身。実力が意味不明だった。

先週末福島で開催されたB2リーグ第4節の福島ファイヤーボンズはまさに「別人28号」であった。対戦相手はライジングゼファー福岡。ヘッドコーチに元スペイン代表コーチを迎え、選手もB1から実力派を引き抜き今シーズン注目のチームである。

22日(土)の試合は、ボンズのそれまでの絶不調(1勝7敗東地区最下位)を証明するかのようにひどい内容であった。ガードのターンオーバー続出、外人のビックマンが走れない、そして連係プレイがかみ合わずチームの特徴がまるで見られなかった。今までの3Pシュート、激しいディフェンスからの速攻はどこに行ってしまったのだろう。

それに反して福岡の方はアウトサイド、インサイドバランス良く得点が取れ、1:1の個人技においても福島の選手とは1日の長を感じさせるものがあった。特に外人選手のチームプレイに徹する姿には感心させられた。得点差が一時30点近くになり、今後どのようにチームを立て直すのか老後の先行き不安とおなじものを感じてしまった。

ところが、ところが、君子豹変す。人は一日で変わる、チームも同じ、岸田首相もこれまた同じ。23日(日)のボンズは「別人28号」であった。逆も真なり。福岡も悪い意味で「別人28号」になってしまった。

きっかけはディフェンスである。前日マンツーマンで守ってコテンコテンにやられたボンズはゾーンディフェンスでスタートした。1Qは前日と同じ展開で、福岡の圧勝ペースで終了。しかし2Qから徐々に変化が出始めた。昨日マシンのように決まっていた福岡のシュートが落ち始めた。同時にディフェンスにも悪い兆しが出始めた。ボンズのドライブ、センターのゴリゴリポストプレイに対してファールを連発。そのおかげでオフェンスに決め手を欠くボンズはフリースローで加点してなんとか競り合いに持ち込み、前半は僅差でリードして終了。

後半に入ると福岡もゾーンディフェンスをやり始めた。この時点で福岡は完璧に自らゲームプランを崩してしまったのではないだろうか。以後ボンズのゾーンがさらに効果を発揮し、福岡はターンオーバーの連発で自滅。ボンズはディフェンスの好調がオフェンスにも飛び火し、全員が奇跡的なシュート成功を見せて予想外の圧勝となった。

改めて勝負の流れを決するのはディフェンスであることを確認させられた。プロでさえ相手のディフェンスが変わるとオフェンスが崩れる。ディフェンスが機能すると皆がステイファン・カリーに変身してしまう。バスケットの醍醐味を見せられた二日間だった。